

2025年 第39週（9月22日～9月28日）の感染症発生動向調査情報

<今週の内容>

- 1 百日咳について
- 2 管内の感染症発生状況（百日咳以外のもの）
- 3 結核・呼吸器感染症予防週間について

1 百日咳について

当所管内では今週1人の百日咳の報告（累積患者数17人）があり、県内では56人（先週45人）の報告があり、今年の累積患者数は3,146人となりました。百日咳は主に患者の咳やくしゃみなどにより、しぶきに含まれる細菌を吸い込むことによって感染（飛沫感染）し、7～10日の潜伏期間を経て風邪症状がみられ、次第に咳の回数が増えて強くなります（約2週間）。その後、短い咳が連続的に起こり、咳の最後に大きく息を吸い込み、痰を出しておさまるという症状を繰り返します（約2～3週間）。ワクチン未接種の乳幼児が感染すると、嘔吐や無呼吸を伴い、重篤化しやすいので注意が必要です。また、乳児期にワクチン接種を受けていても、終生免疫は得られないので、成長後に感染することがあります。予防として、咳エチケットなどの一般的な感染対策が有効となります。

<感染症に関する情報>

◆兵庫県ホームページ

[兵庫県感染症情報センター](#)

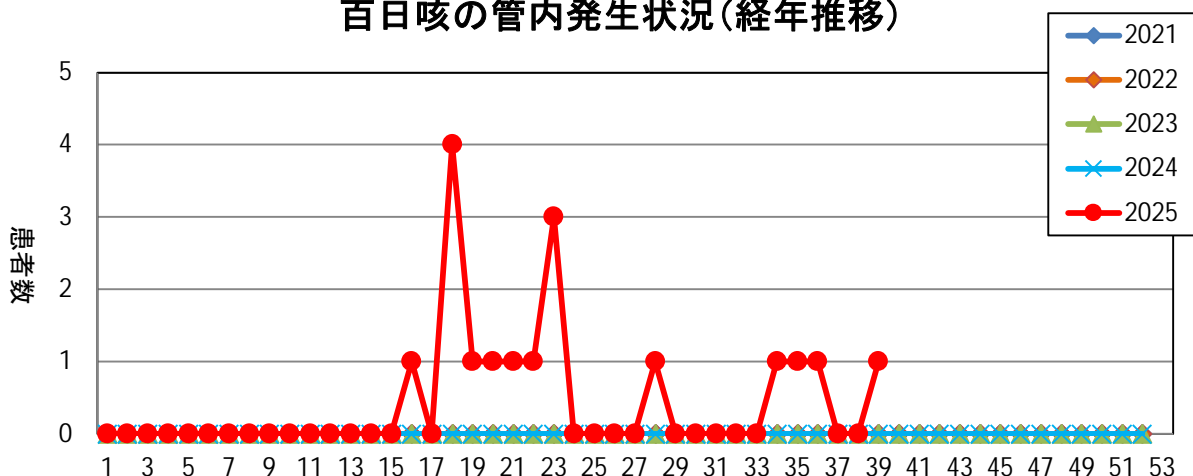
[百日咳について](#)

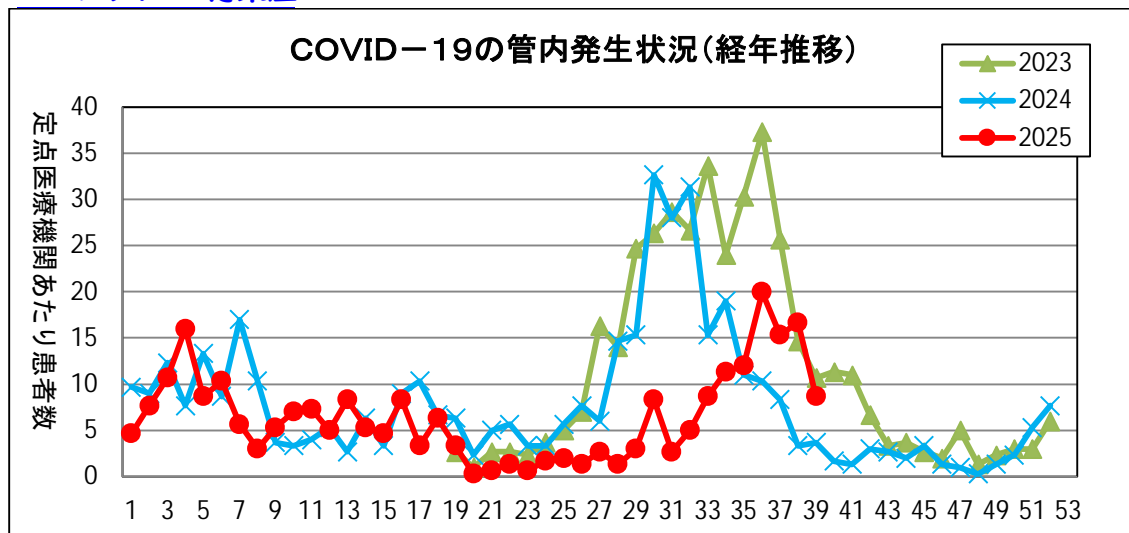
◆国立健康危機管理研究機構ホームページ

[百日咳](#)

[百日咳 感染症法に基づく医師届出ガイドライン（第三版）](#)

百日咳の管内発生状況（経年推移）





3 結核・呼吸器感染症予防週間について

～長引いた 咳に結核 疑って 早い受診につなげよう～

厚生労働省では、毎年9月24日から9月30日を「結核・呼吸器感染症予防週間」と定め、結核と呼吸器感染症に関する正しい知識の普及を図っています。

結核は、毎年1万人以上の方が新たに発症しているわが国の主要な感染症の一つです。令和6年中に朝来健康福祉事務所管内での発生はありませんでしたが、但馬圏域では新たな発生があり、そのうちの9割弱は75歳以上の高齢者でした。

高齢になると、咳や痰などの症状が目立たなくなり、受診や診断が遅れてしまうことがあります。年に一度は胸部エックス線検査を受けましょう。咳や微熱、倦怠感が2週間以上続く場合は受診が必要です。元気がない、体重が減るなども受診のサインです。早期に発見できれば重症化を防ぐことができ、家族や友人等への感染拡大を防ぐことができます。症状に気付いた時は早期受診をお願いします。

インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症、細菌性肺炎等の呼吸器感染症の予防のため、マスク着用を含む咳エチケット、換気、手洗い、手指消毒などの基本的な感染対策を心がけましょう。

<感染症に関する情報>

◆兵庫県ホームページ

[結核に関するページ](#)

◆政府広報オンライン

[結核・呼吸器感染症予防週間](#)

◆国立健康危機管理研究機構ホームページ

[結核](#)

◆(公財)結核予防会結核研究所ホームページ

[トップページ](#)